



【みやした かずのり さん】白樺 / 29歳

●平成19年9月から2年間、国際協力機構の青年海外協力隊活動に参加。アフリカのザンビアでコンピューター技術の指導者として活躍しました。

青年海外協力隊の活動で 視野が広がりました

青

年海外協力隊は、国際協力機構（JICA）が行っているボランティア活動です。現在

2千人を超える隊員が、それぞれが持つ農業や保健衛生、教育文化などの技術を活かして世界で活躍しています。

宮下さんは平成19年9月から2年間、アフリカの南部に位置するザンビアの職業訓練学校で、コンピューター技術の実習指導に取り組みました。

大学生のときから、青年海外協力隊の活動に参加したいと考えていた宮下さん。大学卒業後はコンピューターのソフトウェア開発会社に就職しましたが、『海外に出て社会貢献がしたい』という気持ちがいよいよ大きくなり、協力隊への応募を決心しました。

現地の職業訓練学校では将来を担う約100人の生徒にコンピューター技術の基礎を教えました。「コンピューターを持つている生徒もいれば、最初は電源の入れ方がわからない生徒もいました。卒業した生徒が学校を訪れて、その後の活躍を報告してくれたときはうれしかったです」と話します。

また、現地の指導者が継続して生徒に技術を伝えていくことができるよう、学校の指導体制を整えました。「協力隊の技術支援は大切ですが、目標は現地の人が自立することです。2年間でその基礎を築くことができました」と活動の成果を振り返ります。

現地での生活体験も貴重な経験です。「言葉の壁や文化の違い、慣れない生

活環境など、大変なこともありましたが、現地の方と直接交流し、その土地の生活や文化を体感できたことは私にとって大きな財産です。また、海外に出たことで客観的に日本の姿をとらえるようになり、自分自身の視野が広くなりました」と話します。

協力隊の活動経験を活かして、今後も海外の方たちとふれあう機会のある仕事に携わりたいという宮下さん。「インターネットで世界中のさまざまなことを調べられる時代ですが、現地に行かないと体験できないことはたくさんあります。また、若いときだからこそ、得ることも多いと思います。ぜひ、協力隊の活動に参加してほしいですね」とメッセージを送ってくれました。

人 の い る 風 景
S C E N E R Y O F P E O P L E



宮下

KAZUNORI
MIYASHITA

和規

さん